



# ひまわりノ畑



教育目標 思索・和敬・剛健  
R7学校スローガン 笑顔とあいさつそしてありがとう

<http://www.kivose.ed.jp/kivosedaijishu/wazekkou/index.htm>

## “春一番”が吹き、涙の季節となりました。

立春(2/4)から春分の日(3/20)の間に最初に吹く強い南風のことを「春一番」と呼びますが、気象庁の発表によると、今年は2月23日に吹いたそうです。春は三寒四温と呼ばれるように、その後は、一週間サイクルで暖かい日と寒い日を繰り返しながら段々と暖かくなります。力の庭の梅の木はすっかり満開を過ぎましたが、今は正門横のアンズと、体育館裏のソメイヨシノの蕾(つぼみ)が膨らみ始め、春の足音が着実に聞こえています。



あんず 2026,3,9 校庭門横

### 花粉症の季節となりました…

この時期、厄介なのは花粉です。日本気象協会による今春のスギ・ヒノキの花粉飛散予報では、例年より多くなる見込みだそうです。花粉症の人はしばらく、辛い日が続きそうです。花粉症で涙が止まらなくなるのは、体の防衛反応です。涙は目を乾燥から保護するために涙腺から分泌される涙液です。もともと水中生活をしていた生物が、陸上生活へ進出する際に、体内から水分がなくなり干乾びないように、皮膚やウロコを進化させました。ところが光を感知する目を皮膚で覆うことはできないので、瞼(まぶた)の開閉式となりました。瞼を開けている間に乾燥を防ぐための仕組みが涙です。目が潤っていることで、光は正しく屈折し、さらに、毛細血管のない眼球へ酸素や栄養を運ぶ役割も担っています。



**涙とは何か？** 涙には3種類あり、成分も少し異なるという研究があるそうです。

1つ目は、前述のように乾燥などから目を守るための基本的な涙。これは常時、分泌されています。

2つ目は、目に外部から刺激(ホコリなどの異物、化学成分、強い光など)があった時の反射反応です。これは一気に大量の涙を流して、目を緊急保護するためのもので、花粉症などによる涙はこれです。

3つ目が、感情に関わる涙です。心の中(脳)の感情(嬉しい、悲しい、好き、嫌い、快、不快など)から生まれ、自律神経を通して伝わった信号に涙腺が反応したもので、顔の表情筋と連動して、「表情」が生まれます。

人の表情が、他の動物に比べてこれほど豊かなのは、自然界において、身体的に弱い動物だからだと唱える学者がいます。

人類は、弱肉強食の食物連鎖の中で生き残るために、脳を発達させ、集団生活をする道を選びました。仲間と助け合うためには、情報交換や意識の共有が重要で、自分の気持ちや考え、状況を相手に伝えるために、表情を持つようになったとの説です。例として、まだ言葉を持たない赤ちゃんが泣くことをあげています。



蟻やミツバチ、オオカミなど、「社会」を作り生きている生物はたくさんいますし、怒りや威嚇を表情や態度で示す動物はいますが、嬉しいや悲しいという意識を涙や笑顔で伝える生物は人類くらいです。複雑な社会を持つ人類が、協働して生きていくためには、やはりコミュニケーション力(伝える力、受け取る力)を高めることが大切で、涙と笑顔はともに、大切な要素だと思います。

さて、卒業式の涙は何でしょう？ どんな感情から生まれるのでしょうか？ 嬉しいや悲しいという感情とも違うように思います。先日のミラノ・コルティナ冬季オリンピックで、選手たちの活躍に感涙した方も多いと思いますが、それとも違うような気がします。いろいろ考えた末にたどり着いたのが、「感謝の気持ちから生まれる涙」というのが一番近いように思います。

3年生の皆さんが過ごしたこの3年間には、感謝がたくさん詰まっているのではないのでしょうか？

# ミラノ・コルティナ 2026 冬季パラリンピック



## IT's Your Vibe 「困難は飛躍へのトランポリン」

スノーボードやフィギュアスケートなどの選手の活躍に、日本中が歓喜に沸いた冬季オリンピックから2週間がたち、3月6日からは引き続きパラリンピックが開催されています。



今回、大会のモットーもマークもオリンピックと同じで、マスコットも同じオコジョです。オリンピックは白毛の「ティナ」、パラリンピックは茶毛の「ミロ」で、色の違いは夏毛と冬毛の違いでしょう。2匹は姉弟で、ミロは「生まれつき、後ろ足のひとつがなかったが、その創造力と強い意志によって、尾を使いこなし、自身の違いを強みに変えることを学んだ。」とのストーリーを持ち、しっぽを器用に使って歩き、いたずらや雪遊びが大好きなどどこにでもいるオコジョで、「困難は飛躍へのトランポリン」という心情を持ち、パラリンピックの精神を体現する存在とのこと。 (OLYMPIC.COM\_HPより)

開会式で、ジョヴァンニ・マラゴ組織委員長は、「パラリンピックは社会を変革する特別な機会であるということです。国を真にインクルーシブ社会（包摂的な社会）へと変え、そして何よりも、**障がいと多様性について社会全体の意識の中で、考えるきっかけを生み出します。**」と言っています。確かにパラリンピックが大きく報道されるようになったころから、日本でもインクルーシブ社会への意識が高まってきたように思います。日本からは、全6競技に総勢44選手が出場し、日本選手団のスローガンは「挑め、心をひとつに。」です。選手の皆さんの活躍が楽しみです。

## 2年総合 「みんなが住みやすいまちとは何かを考えよう」 発表会 3/7

冬季パラリンピックを伝えるNHKの番組で、会場となっている街が、「誰もが、楽しめるスキー場作り」を目指して、町ぐるみで取り組んでいる様子を紹介していました。内容は「チェアスキーをする方をどのようにストレスなくリフトやゴンドラに誘導するか？」の対策についてで、そこには、思考錯誤の末、課題を解決した人たちの誇らしげな笑顔と、チェアスキーを楽しむお客さんの笑顔がありました。



2学年では、年間を通して、SDGs やユニバーサルデザインなど、インクルーシブ社会をテーマに取り組んでおり、3学期はその総まとめとして「**みんなが住みやすいまちとは何かを考えよう**」というテーマを縦糸に、車いすバスケットや福祉体験など4つの体験を横糸として、学習を積み上げてくれました。3月7日の土曜授業参観では、各学級で、生徒一人ひとりが、これらの学習を通して学んだこと、自分が考える「街づくりへの提言」を発表してくれました。

「誰もが移動しやすい道路」「多様な方々との交流事業計画」「空き家利用したユニバーサルな街」「地域参加型のイベント」「ボランティアの組織づくり」「相談窓口カフェ」など、多彩なアイデアが出され、金銭面なども考えた具体的な提案もあり、施設などのハード面から、NPO などのソフト面の視点など、幅広い内容でした。この学習を通して、自分が考えたことを心に留め、それぞれの将来の何かに繋がってくれればと思います。



## 残念、桃の節句の皆既月食は雨… 次回は3年後の元日

春は、晴れて暖かい日と、冷たい雨の寒い日が、1週間サイクルで天候が変わるのですが、3月3日（火）の桃の節句は本降りの雨となり、皆既月食は、厚い雨雲の上となりました。残念…。右の写真は、昨年9月8日深夜の皆既月食の様子です。この日はちょうど、3年生の修学旅行出発日でした。



次回は、**2029.1.1 0:07**

次回、日本で見られる皆既月食は、3年後の2029年1月1日の元日です。しかも、除夜の鐘が終わり、新年になったばかりの午前0時7分に欠け始めます。「修学旅行」の後は「桃の節句」、そして「元日」と、どれも行事や季節行事と重なり、印象に残る皆既月食です。ここ10年間連続で関東地方の元日は晴れ又は快晴なので、次回は、期待大です。

